



茨城のスポーツ少年団

第36号 発行／平成28年3月28日 編集／公益財団法人茨城県体育協会茨城県スポーツ少年団

TEL 029-226-9972 FAX 029-226-9973 URL <http://www.ibaraki-sports.or.jp/ibarakiken/>



関東の輪

茨城県スポーツ少年団

リーダー会会長 額賀 司

関東ブロックスポーツ少年団リーダー研究大会とは、一都七県のリーダー会から代表者が集まり、リーダー会の発展・充実を狙いとする大会です。今年度は、八年ぶりに県立中央青年の家で開催され、デイスカッションや、レクリエーション研究などを行い、交流をしながらお互いを高め合いました。

各都県のリーダーは、活動への意識が高く、積極的に意見を述べたり、輪の中心にいたりすることが多く見受けられました。そのことに刺激を受け、茨城県のリーダーを含め、初心者リーダーたちも新鮮な意見を



発言するなど、有意義なデイスカッションになったと思います。他都県からの意見を聞き、茨城県スポーツ少年団リーダー会も成長していかなければならないと実感しました。

レクリエーション研究では、各都県から持ち寄った十分程度で行えるレクを全員で行い、良い点や改良点を模索することで、更に楽しく効率の良いレクリエーションにするように評価し合いました。今年度は、ウォーミングアップからクールダウンまで各都県に担当を割り当て、どのレクリエーションも楽しく、初めて体験するものや、バリエーションアップしているものもありました。自分の都県に改良点を持ち帰ることだけでなく、他都県に対しても新しいものとして参考になる時間になったと思います。

最後に、茨城県スポーツ少年団リーダー会では様々な活動を行っております。単位団だけでなく、他県や他国の人と交流し、スポーツをとおして団員に楽しんでもらえることを企画し、活動しています。興味がある方は是非リーダー会の活動に参加してください。

第42回 日独スポーツ少年団 同時交流受入事業 つくば市

8月4日～8月8日

子ども達の日独スポーツ交流

三好 佳代子

家族五人でのアメリカ生活を経験し、帰国後はできるだけその経験を活かす機会をもちたいと考えていました。初めてのホームステイは不安だったのですが、スポーツ好きな子ども達とドイツ好きな私にとって良い機会だと思い、引き受けさせていただきました。

子ども達は一生懸命ドイツ語での自己紹介や挨拶を覚えていましたが、彼女も英語が話せるということで、英語でコミュニケーションをとることができました。子ども達はすぐに打ち解け、持参してくれたアルバムを見てドイツのよさを知り、毎日一緒にサッカーをしたり、夕方のエクササイズクラスに行ったり、部活を少し見学したり、トランプでは大いに盛り上がりました。

一緒に遊び、過ごす中でドイツ語でのじゃんけんの仕方から、食文化や気候、スポーツ環境の違いなどを通じて、子ども達はまた違う世界を知ることが

できたようです。違う世界を知りながらも、同じスポーツを楽しむ者同士、有名選手の話をしたり、逆に会話がなくてもボール遊びで通じ合ったりと、とても有意義な五日間を過ごすことができました。何より、国は違ってもお互いスポーツを楽しみ、頑張つてほしいと思う相手に出会えたのは、素晴らしい経験になりました。彼女らドイツ団の様子を見て、子ども達もいつか外国に行つてみたいと話していました。この機会を与えてくださった関係の皆様方、本当にありがとうございます。

木原 芳子

我が家では、十七歳の女の子を受け入れることが事前に分かり、メールのやり取りをしつつ、その日を楽しみにしていました。市役所での歓迎レセプションで対面、歓談後に一緒に帰り、四泊五日の交流がスタートしました。とは言っても、昼間はドイツ団での活動があり、一緒に過ごせる時間はわずかです。短い時間をいかに寛ぎ、楽しんでもらえるか、色々考えました。

初日の夕食後は、彼女の家族のアルバムを見ながらドイツの話の聞いたり、子ども達とトランプをしたりして過ごしました。ドイツの二から六を除いたカードでのトランプゲームを教えてもらい、最後には大人も混ぜたり大いに盛り上がりました。お料理のこともわかり、翌日は一緒に餃子を作りました。初めてでも器用に上手に包んでくれました。その後、少年団の剣道の稽古へ見学に行き、素振りや打ち込み稽古など体験し、とても楽しかったそうです。疲れていると思いきや、帰宅後も娘と撮った写真を交換したり、折り紙で遊んだり、フル活動でした。短時間のうちに折鶴もきれいに折れるようになっていました。一緒に花火をしたいという子ども達の希望もあり、三日目は小雨が降り始めた中、カーポートの下で花火をしました。娘の友人から「彼女に会いたい！」とメールがあり、合流してもらいました。すぐに打ち解け、様々な話をしていました。ホストファミリーの日には、大洗水族館と魚市場へ行きました。子ども達は道中一時間も英語でしりとりをしていたので、びっくりしました。平日にもかかわらず混んでいましたが、夏休みを満喫しました。

帰国後、我が家の食事が一番気に入ってくれた天ぷらを作ったと写真を送ってくれました。

こんな細やかな心遣いのできる素敵な女の子と過ごせて、私たちも幸せでした。今回の受入を通じて、親子共々貴重な体験をさせていただき、この機会を与えてくださったことに心より感謝申し上げます。



第42回 日独スポーツ少年団 同時交流派遣事業 ドイツ 7月31日～8月17日

森田 洋右

私は、第四十二回日独スポーツ少年団同時交流に参加しました。この交流では、七月三十一日～八月十七日の十八日間、ドイツへ研修に行くというものです。この活動をおして本当にたくさんのお話を学び、考え、感じてきました。

まず、ドイツへ到着後、私たちが一番初めに感じたことは

「空気が乾燥している」ことです。ドイツは日本と違い、湿度はあまり無く、カラッとしています。そのため、ドイツの湿度になれていない私たちが夜にマスクをしないで寝ると、翌朝、喉が枯れてしまいました。他にも食文化の違いや言葉の壁など、たくさんの課題に直面しましたが、言葉は大体英語で話通じますが、幼い子どもやご年配の方はドイツ語しか話せないの、ジェスチャーを交え、意思疎通をはかりました。

これら以外にもいろいろな事を経験し、この交流が終わる頃には自分でも驚くほど物事の考え方が変わっていました。私にとってこの交流は、自分を一回り成長させ、一生の思い出に残るものでした。





平成27年度

日本スポーツ少年団 表彰楯授与式

8月29日
北茨城市

受賞市町村

・常陸大宮市スポーツ少年団

受賞指導者

- ・大岡 紀一（大洗町）
- ・村田 孝二（日立市）
- ・花見美知子（東海村）
- ・小畑 繁（行方市）
- ・蒲生 哲雄（ひたちなか市）
- ・箱根 勝己（行方市）



スポーツ少年団 指導者研修会

中郷FC 小笠原 翔

私の息子の入団をきっかけに地元のサッカー少年団の指導者になりました。人に教える立場となり、楽しさの中から少しでも上達できる喜び、その子ども達の姿を見るたびに自分も力をもらい、充実した日々を過ごしています。

今回、指導者研修会に参加させて頂き、他の先生、指導者の話を聞くことができました。グループディスカッションでは、団員数の減少がテーマにあり、その背景には少年団が子どもの託児所になっていることや、親の当番が面倒など、子ども中心ではなく、親中心になっており、スポーツをやりたくてもやれない環境になっている現実であると感じました。この問題に対応して、親と子が一緒にプレーして親にも楽しさを知ってもらうことや、体験入団などを行い、ウェルカムな雰囲気をつくるのが大切であると、今後の課題となりました。

静岡理工科大学教授、富田寿人先生の講演では、幼児期からの運動遊びの大切さを学びました。低学年は飽きっぽく、ひとつの練習メニューに集中するのが難しいので、サッカーにつながる遊びやゲームを多く取り入れ、サッカーは楽しいものと認識させることが大切であると思います。そのためには、指導者である私自身が非常に重要な立場で

あり、身の引き締まるお話を聞かせて頂きました。この研修の経験を今後の指導に活かし、子ども達と一緒にスポーツを楽しんでいこうと思います。



スポーツ少年団女性指導者フォーラム

2月7日
行方市

茨城県スポーツ少年団

女性指導者フォーラム

に参加して

瓜連SSS 瀧本 京子

茨城県スポーツ少年団女性指導者フォーラムに参加し、この年代ならではの育成の大切さと、それに関わっている自分の立場を、いろんな視点から学ぶことができました。

昨年度までは、育成会としてのサポートで十一年程関わってきましたが、今年度より、少年団事務局とサッカー協会に関わるようになり、思い切つてこの研修会に申し込んでみました。

私の立場で何かできることをと模索していたこともあったので、この研修会はとても良い機会になり、私の軸をしっかりとものにしてくれました。

午前の部、バスケットボール元日本代表岡里明美さんの講演では、幼少期から現在の指導者に至るまでの経験談を交え、とても分かりやすく、心に残るお話ばかりでした。その中でも印象に残った言葉は、やはり経験者（プレーヤー）でなければ出てこない言葉。「過程は、とて

も大事。しかし、結果が全て」

私の中のつかえたものが、スリッと落ちていく気がしました。逆に、その言葉の裏側にある優しさを無制限に感じることができました。

「コーチ」という単語には、「馬車」という意味もあり、それは、「大切な人を、その人が望むところまで送り届ける」とのお話には、意味もなく涙が溢れてきました。

午後の分科会では、私も最初は知らない人ばかりで緊張し、なかなか自分の意見を発言できませんでしたでしたが、周りの指導者方の少年団への熱い思いに刺激されながら、自分の言葉で楽しく話すことができました。

改めて、スポーツ少年団の現状とこれからの課題について、たくさんの方々とディスカッションすることができ、一日があつという間に過ぎ、参加して本当に良かったと思える研修会になりました。

最後に、北浦が一望できる素晴らしい施設で学んだことが、これからのサッカーに関わっていく中でリンクし、かけがえない大切な時を、たくさんの子

ども達と築いていけたらと思います。



女性指導者フォーラム

に参加して

千ヶ崎 順子

私は今回初めてこのフォーラムに参加しました。とてもためになるお話を聞かせていただきました。特に講演していただいた講師の岡里明美さんのお話は、素晴らしいかったです。私も現在、六年生の親で色々考えさせられました。子ども達は夢を持つことがとても大事だということ。子ども達に色々な経験をさせてあげること。良い所を見つけて褒めてあげること。簡単なようでなかなかできないことだと思えます。私の息子もスポーツで野球をやっておりますが、子ども達を見ていて「どうして

子ども達と築いていけたらと思います。練習ではできているのに本番ではできないのだろうか？」と何度も思っていました。ちょうどその話が岡里さんの講演の中でもでてきました。理由は「子ども達が受け身だから」なるほどなと思いました。練習でも常に自分で考えて動かないと、本番でどうしていいか分からなくなってしまうと思いました。もう一つ岡里さんが最後にお話してくれた「過程はとても大事。しかし結果が全て！」そのとおりだと思います。息子にも話してあげようと思います。

最後に、この女性指導者フォーラムに参加してとても良かったと思います。またこのような機会があれば参加させていただきます。



第53回
全国スポーツ少年大会
8月1日～4日 宮城県

森泉 怜

僕は宮城県初開催となる「第五十三回全国スポーツ少年大会」に参加しました。SHIP活動やキャンプファイヤーなど、文化・スポーツ活動を全国から集まった仲間達と行い、四日間楽しい日々を過ごしました。僕のチームのリーダーは中学一年生でしたが、みんなをまとめようと頑張っていることがチーム全体に伝わり、結果、どのチームよりも元気で楽しいとても良いチームになることができました。僕は、最年長としてリーダーをしっかりとサポートし、個々をひとつにまとめることの大変さと大切さを人との出会いを通じて実感でき、とても良い経験となりました。



平成27年度

ジュニアリーダーズスクール

6月27日
～28日
土浦市11月21日
～22日
常陸太田市

第1回

二日間

メインタイトル

卓球スポーツ少年団

高橋 博子

私は最初、少年団のコーチに「ジュニア・リーダーズスクールに行ってみない？」と言われました。その時は、私ともう一人の女子がいたので、「わかりました」と言つてここに来ました。が、もう一人の子が来られなくなつてしまいました。研修場所に来てみたら女子が一人で、その時はとても不安でたまらなかつたけど、だんだん男子とも普通に話をし、体力テストやレクリエーションなどもとても楽しく出来ました。

講義を聞くまでは、私は、マインター卓球スポーツ少年団という一つの少年団や、他の少年団が好きな活動をしているのだと思つていました。市スポーツ少年団本部、県スポーツ少年団本部、日本スポーツ少年団というとても大きな組織で、とてもたくさんの人とルールによって今まで私たちが活動してきた少年団が支えられているのだということが分かりました。

次に、たくさんやったレクリエーション活動にとても多くの意味が込められているのがこの二日間で分かりました。特に今回の場合は、ほとんどが初対面なので、レクリエーションをすることによって、話すこと、協力すること、そして全員と仲良くなるのがレクリエーションの本当の狙いなのではないかと思ひました。

私は、部活の部長と少年団(中学生の部)の副キャプテンもやっています。特に部活で一年生がふざけている時や、何か決める時など、一人だけの意見を聞くのではなく、全員の意見を聞き、その意見をきちんと一つにまとめられるように努力したいと思ひます。そして、少年団の方では、中学生が小学生の良いいお手本になれるように、今回のジュニア・リーダーズスクールに来た五名が中心となって少年団をまとめたいと思ひました。

最後に私は、ジュニア・リーダーズスクールに来て本当に良かったと思ひます。講義やレクリエーションをおして、部活の部長として少年団の一員として、小学生のお手本になること、団員全員が協力すること、そし

て、どうしたらみんなが仲良くなれるのかということが分かりました。ここで学んだことをこれから少年団の活動に活かしていくのと同時に、今回来られなかった人にも私たちが学んだことを教えていきたいと思ひます。

二日間、とても良い勉強になりました。本当にありがとうございました。

第2回

ジュニア・リーダーズスクールに参加して

明徳剣道スポーツ少年団

有賀 伊織

私がジュニア・リーダーズスクールに参加して学んだことが二つあります。

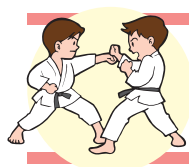
一つ目は、責任感です。私は今、中学生ですが、去年キャプテンをやっていました。私は行きたくないという、自分勝手な気持ちから、休むことがたびたびありました。でも、ジュニア・リーダーズスクールに参加して、一人が集合時間に遅れると、みんなに迷惑がかかってしまうことがわかりました。だから、私は去年の五年生に迷惑をかけていたと思ひます。これからは、責任感をもった行動をとりたいです。

二つ目は、スポーツは勝つことだけではないということ。私は、勝つことだけしか考えていませんでした。でも、ジュニア・リーダーズスクールのリーダーが勝つことだけが目的ではないと言っていたので、確かにそうだなと思ひました。負けた

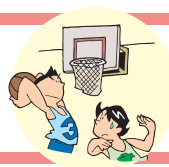
からこそ得られることもあるし、相手を尊敬する気持ちも生まれます。これからは、勝つことだけにこだわらず戦いたいのです。

今回、ジュニア・リーダーズスクールに参加して、とてもよかったと思ひます。友達もできたし、たくさん成長できました。また、リーダーに感謝しています。帰ったら、少年団の子たちに、学んだことを教えてあげたいと思ひます。とても充実した二日間になりました。





一年のあゆみ

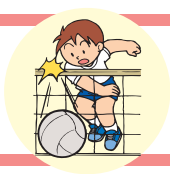


スポーツリーダー養成講習会兼スポーツ少年団認定員養成講習会
5月30日～2月14日（笠間市他13市）



第51回スポーツ少年団大会
7月24日～7月26日（土浦市）





一年のあゆみ



第32回茨城県スポーツ少年団スポーツ大会
6月28日～12月13日（剣道他14競技）



第42回 日独同時交流受入事業
8月4日～8月8日（つくば市）



ガンバッテいきます！

水戸市
スキースポーツ少年団

代表指導者 岡野 秀一

平成3年にスキースポーツの楽しさを子ども達にと、水戸ジュニアスキークラブとして発足し、平成15年に水戸市スキースポーツ少年団の認定を受け、活動を続けています。

当団の活動は、オフトレーニングを除き、他県での活動が主になり、保護者の金銭的な負担が大きく、団員の減少が課題に



なっています。

クラブの充実とともに、技術的・精神的にも子ども達の成長に伴い、全国中学生大会・インターハイ・国体の選手も育てることができました。

本来の目的であるスキースポーツをとおして、体力の向上・健全な精神の育成、スキーをする楽しさや、自分自身の目標を達成する喜びがともにできるよう、スタッフ一同子ども達と一緒に頑張っています。

県北
高萩ジュニア卓球
スポーツ少年団

団長 穂積 義高

平成21年4月に少年団を立ち上げ、最初は小学生6名でスタートいたしました。

私が少年団を立ち上げた動機は、息子が中学校で卓球部に入部し、その時の地区大会を観て、近隣の子ども達に勝てない、県大会は夢だと諦めていた子ども達を見たのが、なぜか自分のことのように悔しかった思い出があるからです。

今年の4月で設立して7年が経ちます。今では小・中学生団員35名、指導員5名で、週2回

計6時間練習しております。

子ども達は小学2年生から中学3年生までがいます。入団時期がまちまちなため、教えていくのがとても大変で根気が必要ですが、褒めて伸ばす、時には厳しく、いろいろな指導パターンを組み合わせ、教え方を工夫して卓球が好きになるように指導しています。

卓球が好きになった子ども達は、日々上達し県大会優勝、関東予選通過、全国大会出場と素晴らしい成績を残しており、先輩のあとに続けとばかりに後輩たちも日々成長しております。

平成28年3月には茨城県選抜代表として、奈良県でおこなわれる全国大会に団員1名が選ばれました。その選手は、卓球のレベルだけではなく、あいさつ、動作、言葉遣い等、生活の面においても後輩たちの見本となってくれています。

少年団で子ども達によく言っている言葉があります。「卓球楽しいか？友達をたくさん作れ、下手な人は誰もいないからな。」一人ひとりの成長にあわせ、個性、考え方が違っていきます。子ども達の目線に合わせてながら指導し、卓球を通して、一人の人間として素晴らしい大人になってくれたら本望です。

そして、その人達が少年団に来て子ども達の面倒をみてくれたら最高です。

最後になりますが、少年団立ち上げの時から卒団式はやらないうと決めています。大人になっても高萩ジュニア卓球スポーツ少年団の団員として後輩達の面倒をみる事が出来るようにです。子ども達が頑張っているから、大人（スタッフ）も頑張ります。



鹿行
麻生フエニックスJr.
スポーツ少年団

代表指導者 小貫 正敏

行方市は、県立麻生高校を中心に市内全中学校でも盛んにハンドボールが行われている地域です。麻生フエニックスJr.スポーツ少年団は、麻生高校OBOGが主体の一般社会人チーム「麻生フエニックス」の有志達により平成十年に創設されま

した。

平成二十七年には、女子チームが茨城県少年少女大会で優勝し、関東大会で準優勝、全国大会にも出場しました。

現在は、小学一年生から六年生まで約三十名の団員がおり、関東・全国大会出場を目標に週二回の練習を行っています。ハンドボールの技術や体力だけでなく、礼儀やあいさつ、学校や普段の生活についても一生懸命取り組むことを大切にしています。

また、卒団生の中には、日本代表として活躍している選手もあり、トップチームの選手と触れ合う機会があるというのは子どもたちにとって非常に貴重な経験となっています。

今後は、より多くの子どもたちにハンドボールの楽しさを伝えるとともに、卒団後もハンドボールに関わり、指導者としてこの場所に帰ってきてくれる子どもたちが多く出てくれることを期待しています。



県南
逆西少年剣友会
スポーツ少年団

代表指導者 大塚 美智子

逆西少年剣友会が発足して、早19年目を迎え、かすみがうら市、土浦市の小中学生のにぎやかな声で火・金・土の稽古日は活気つきます。

道場教訓は「交剣知愛」です。剣道の求める真の礼は、他人の感情に対して思いやれること「こころ」とは、泣くものと共に泣き、喜ぶものと共に喜び、相手の立場を尊重し、共に修行をし、一期一会の心境を与えてくれる良き相手に恵まれたことに感謝できることです。その為に、剣道を正しく学び、真の心と健康な身体を作り、礼儀作法と他人に迷惑をかけない責任感を養い、友情を深め、思いやる心を持つ人間形成を目的に日々修行をしています。

活動内容は、年2～3回の市内道場との合同稽古会で和を深めたり、夏の合宿や道場内での夏季・冬季大会、親子大会、6年生を送る会など、心に残る行事も楽しみです。

また、文武両道においても力を入れ、全国道場書道展や、日本剣道少年団体発表会など毎年数多く入選をしています。

団員一人ひとりが継続の力と頑張りの力を信じ、努力のうえに天才が生まれる「意」をしつかり学び、気合いに全身全霊を込め、日々稽古に励んでいます。



県西
JFJCスポーツ少年団

代表指導者 伊丹みどり

私達「常総フレンドリートラポリンクラブ・ラブリーラビット」は、市内在住の小学生を中心に、平成二十年に設立し、今年で八年を迎えます。

教室を開いておられる先生のご指導を受けながら、日本体操協会公認のバッチテストに向けて日々練習をしています。

また、春と秋には、トランポリンを飛びながらストラックアウト・縄とび・高跳び・紙飛行

機飛ばし等をして遊ぶ「トランポリンカーニバル」も子ども達は楽しみにしています。その他、親睦会としてバーベキュー・ボーリング・食事も行っています。

在籍中の親は「普及指導員」の資格を取得し、夏休みと市主催のスポーツフェスティバルには体験会を行い、トランポリンの楽しさを広げています。

身体を動かすことが好きになり、みんな仲良くトランポリンを楽しんで欲しいことが一番ですが、基礎体力の向上、健康な身体作り、何事にも失敗をしてもまた挑戦する精進を培ってもらいたいです。そして、たくさん経験をして、心身ともに成長してもらいたいと願っています。

今後は、団員を増やすために告知活動にも力を入れて仲間を増やしていきたいと考えています。

私達の団から「オリンピック選手」が誕生する夢が実現できたら素晴らしいですね。

トランポリンを通じて成長する



子ども達を応援し、共に頑張っていきたいと思います。みなさんもトランポリンを是非体験してみてください。



第51回
スポーツ少年団大会
7月24日～26日(土浦市)

初めての

久米ソフトボール

スポーツ少年団
小室陽向汰

ぼくは、この県大会に来て、はじめてだったことが3つあります。

1つ目は、知らない友達と班や部屋班で一緒になったことです。ぼく自身あまり知らない人に話しかけないので、このおかげで少しずつですが、打ち解けることができました。

2つ目は、キャンプファイヤーです。今までにもやったこ

とはありましたが、誓いのことばなどの大役をやったのは、初めてでした。さらに、ダンスや友達と接することが増えました。ダンスは、疲れたけど、楽しくできてよかったです。

3つ目は、ウォークラリーです。写真だけのヒントで探すのは大変でした。なかなか見つからないものもあり、この先に何かがあるのか予想ができないこともありました。しかし、その中でできたときの喜びや、達成感が大きく感じました。体調が悪くなった人もいたが、みんな協力してできたので良かったです。

この学習によって得られたものも多く、何より友達ができてうれしかったです。





いきいき茨城ゆめ国体2019

第74回国民体育大会 翔べ 羽ばたけ そして未来へ

三年後に茨城国体が開催されることを契機に、スポーツ少年団として何かできることはないだろうかと考え、茨城県選手団の活躍を祈願して、千羽鶴を選手団へ渡そうという動きも出始めております。



日本スポーツ少年団指導者綱領

1. わたくしたちは、次の時代を担う子供たちの健全育成のために努力します。
1. わたくしたちは、スポーツのもつ教育的役割を果たすために努力します。
1. わたくしたちは、子どもたちのもつ無限の可能性を開発するために努力します。
1. わたくしたちは、つねに愛情と英知をもって子どもたちと行動するよう努力します。
1. わたくしたちは、スポーツを愛する仲間とともに世界の平和を築くために努力します。

日本スポーツ少年団団員綱領

1. わたくしたちは、スポーツをとおして健康なからだを心で養います。
1. わたくしたちは、ルールを守り、他人に迷惑をかけない、りっぱな人間になります。
1. わたくしたちは、スポーツによって、自分の力を伸ばす努力をします。
1. わたくしたちは、スポーツのよろこびを学び、友情と協力を大切にします。
1. わたくしたちは、スポーツをとおして世界中の友だちと力をあわせ、平和な世界をつくります。

みんなであそんで元氣アップ!

アクティブ・チャイルド・プログラム

子どもたちが楽しみながら積極的にからだを動かせる。それがアクティブ・チャイルド・プログラム（ACP）です。日本体育協会は、子どもたちが発達段階に応じて身につけておくことが望ましい動きを習得する運動プログラムとして、アクティブ・チャイルド・プログラムを開発しました。以来、主に次の4つのテーマについて、実際の指導現場への普及を図っています。



子どもの身体活動量の低下や運動離れは、すでに幼児期から起こっていると考えられます。日本体育協会では、「幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム」をとりまとめ、安心して幼児を指導できる活動プログラムの提供や情報発信にも努めています。



【公益社団法人日本体育協会ホームページより引用】

http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/acp/minna_acp_summary.html



編集後記

普及・広報委員会
委員長
副委員長
委員

草井米笠谷水友
山坂川間野鳥部
美和一 丈幸幸静
子広優夫雄男江

昭和三十三年の東京オリンピックを機に「日本スポーツ少年団」が設立され半世紀。当時と現在では、青少年を取り巻く環境も様変わりしています。スポーツに取り組みむ子ども、まったくしない子に二極化している様に感じるこの頃ですが、人間の身体は動かすことにより、健康を保つようにできています。

三年後は茨城国体、四年後は再び「東京オリンピック・パラリンピック」が開催されます。子どもたちが、楽しくスポーツに取り組みむキッカケになるよう、盛り上げていきたいと思います。

1000万人の保険 小さな掛金大きな補償

スポーツ安全保険

傷害保険 賠償責任保険 火災・盗難・器物損壊保険

※4名様以上の団体・グループでご加入下さい

スポーツ安全保険は、スポーツ活動のほかにも、文化、ボランティア、地域、レクリエーション活動などにおける不慮の事故に對する備えとしていただけるものですので、ぜひご加入ください。

インターネットからも加入受付を行っております
<http://www.sportsanzen.org>

補償内容など詳しいことはお問い合わせ下さい

公益財団法人 スポーツ安全協会茨城県支部

〒310-0911 水戸市見和1丁目360番地2（水戸生涯学習センター内）

TEL 029-300-4710 受付時間：午前9時30分～午後5時（土・日・祝日を除く）